

西日本鉄道株式会社 代表取締役社長 林田浩一様

香住丘小学校／香椎第2中学校の移転先確保に関する要望書

拝啓 貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私共、香住丘校区自治協議会は、校区住民の親睦や連帯により「世代を超えた交流の街」を目指して、豊かで潤いのある生活の実現を図るとともに、様々な地域課題の解決に日々取り組んでおります。この度、香住丘校区における教育環境の充実を願う地域住民・保護者として、香住丘小学校／香椎第2中学校の適切な教育環境を確保するため、かしいかえん跡地の活用について要望を申し上げます。

貴社が1956年に開園されたかしいかえんは、2021年の閉園に至るまで、65年にわたり、香住丘校区の発展とともにあり、地域住民に愛され、親しまれ、育てられて参りました。そのため、跡地の有効活用は地域住民にとっても、喫緊かつ、非常に重要な課題となっております。

一方、香住丘小学校／香椎第2中学校は、近年の人口増加に伴い児童数が急増し、過大規模校となっております。文部科学省の定める学校規模の基準において、小中学校1校当たり31学級以上であれば「過大規模校」に該当するとされています。香住丘小学校／香椎第2中学校では、この基準を超える状況が続いており、教育環境の格差が広がり、教育環境の維持が困難となっているのが現状です。

具体的には、香住丘小学校においては、教室不足のため、運動場にプレハブ校舎などを建てざるを得ず、運動会の3分割での実施や、昼休みも分割して利用するため十分な昼休み時間が確保できないこと、更には特別教室の活用にも支障を来すなど、校舎や運動場の不足、教室の過密化が深刻な課題となっており、香椎第2中学校でも同様の問題が生じてきており、児童の学習環境や安全性の確保が大いに危惧されています。特に、近年の児童数増加傾向を踏まえると、現在の敷地内での対応は限界に達しており、早急な対応が必要です。

こうした状況を踏まえ、地域住民・保護者の間では、かしいかえん跡地を活用して香住丘小学校／香椎第2中学校を移転・新設することが最適な解決策であるとの声が高まっております。かしいかえん跡地は十分な広さを有し、子どもたちにとってより良い教育環境を提供することが可能となります。

(例：①香住丘小学校の単独移転②香住丘小学校を分離／新設し、新小学校用地を確保③香住丘小学校／香椎第2中学校を小中一体型として、移転④香住丘小学校を香椎第2中学校用地へ、香椎第2中学校をかしいかえん跡地へ移転)

また、福岡市内では、学校再編の一環として小中一体型の新設校が進められています。これらの事例を参考に、かしいかえん跡地を活用した適正規模の学校整備が、地域の教育環境改善や校区内に立地する県立女子大、九州産業大学、香住丘高校と一体となった、学びの拠点としての地域活性化に大きく寄与すると考えます。

つきましては、貴社におかれましても、地域の未来を担う子どもたちのため、かしいかえん跡地を香住丘小学校／香椎第2中学校の移転先として確保するとともに、緑豊かで活力のある香住丘校区に相応しい跡地利用をご検討いただきたく、ここに強く要望申し上げます。

貴社のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

令和7年3月18日

福岡市東区香住丘校区自治協議会会長 山中一男